

「長浜市地域福祉計画検討委員会 第5回会議」会議概要録

日 時 令和3年11月26日（金） 13:30～15:10

場 所 長浜市役所本庁舎1階 多目的ルーム3・4

出席者

（会議構成員）筒井 のり子、平井 和子、堀 直美、曾根 昭信、野村 一成、北川 美由紀、川村 美津子、美濃部 裕道、丁野 利彦、川瀬 順子、高山 和代、柏崎 元皓、西橋 義仁、木口 佐知代、鈴木 良嗣、野寺 英里香

（順不同、敬称略） 以上16人

（長浜市社会福祉協議会（地域福祉課））

課長 鈴木 茂喜、担当リーダー 山岡 伸次

（長浜市（事務局：長浜市社会福祉課））

健康福祉部長 福永 武浩、健康福祉部次長 横田 留里

課長 中田 重樹、参事 堀江 一敏

副参事 沢本 勘与、主幹 山田 智洋、主査 前田 紗希

傍聴者

なし

【開会】

- ・健康福祉部長挨拶

【協議】

（事務局）

- ・長浜市社会福祉大会の報告（長浜市社会福祉協議会）
- ・第3期長浜市地域福祉計画案にかかる主な変更点の説明
- ・第3期長浜市地域福祉計画案概要の説明

（委員）

・重層的支援体制整備事業の表現をわかりやすくすることについて、どのように整理されているのか知りたい。また計画について、今後PDCAサイクルを回すということだが、どのような形で評価するのか。

（事務局）

・重層的支援体制整備事業について、例えば「社会的資源」とは、働く場のことなどを示すが、そういった具体的な表現に変えている。また、PDCAサイクルによる進捗管理は今後、年1～2回程度会議を開催し、

共有していきたい。

(委員)

・用語説明の「8050 問題」について、相談に結びつかず困難な状態になって地域から声が掛かり、支援をするケースが多いが、親子で傷ついた体験や何等かの理由で支援が絶え、課題を抱え込んでいるなど、表現について検討してほしい。

(座長)

・用語説明について、丁寧に書かれているといえばそうだが、かえってぴったりこないところもあるので、もう少しざっくりとしても良いのではないか。

(委員)

・役割分担かとは思いますが、重層的支援体制整備について、行政と長浜市社会福祉協議会の 2 者で進めていくように見える。他の相談窓口もあると思うがそのあたりの連携はどうなっているのか。

(事務局)

・一番身近にかかわって頂いている地域の方々のこと等を言われていると思うが、包括的相談支援の中にそれぞれの役割として担って頂いている。ご指摘のとおり、市民の方が相談に行きやすい一番身近な窓口が描き切れていないと思うので再検討したい。

・重層的支援体制整備事業の記載については、一番悩んでいるところ。わかりにくいですが、国を挙げてこの体制を作っていこうとしている。長浜市は先進的・モデル的に取り組んでいるので、あえて「重層的」と表現することで、啓発していきたい。すべてをわかりやすくかみ砕くのではなく、こうした表現も残しつつ、わかりやすいものに改めていけるよう検討している。

(座長)

・「重層的」の意味の本質的なことについてわかりやすくできれば良いと思う。いろんな相談機関がそれぞれ対応し連携する、また個々では対応できないことに対し様々なところが集まって一緒に検討する・相談できる体制ができるか、さらに専門機関だけではなく地域の方々と連携することで、参加事業となり、暮らしの支えあい検討会を進めているなど、わかりやすくできればよいのではないか。引き続きご検討を頂きたい。

(委員)

・前回指摘したインクルーシブ教育について表現を変え良くなった。しかしインクルーシブ教育という言葉を目にしたことのある人は少ない。用語説明にある記載内容はわかりやすい。本編の中の表現と用語説明を関連づけるとよりわかりやすくなると思うので検討してほしい。

(委員)

・「重層的」の表現について、厚みがあり、抜け目のない、しっかりしたものに見えるが、市と、社協だけで進めていく体制に見える。地域福祉計画なのに、地域がおざなりになったように感じる。

(座長)

・概要版に市の体制図を入れる必要があるか。重層的支援体制は、行政がどう動くかが問題。ばらばらの窓口をひとつに、また窓口がばらばらでも人が連携するなど、これまでの行政の縦割りからどう変わるかのところ。

(委員)

・重層的支援体制の中で自分の立場は今どこにあてはまり、どこにいるのか、わかるようになればよい。

ここまではきたが、この先はどうするのか、など現在の立ち位置がわかると、いつ・どこで・どう困っているのかがわかる。我が事としてみた時の視点をいれると良い。

(座長)

・供給側だけでなく、住民側の目線にたった方がわかりやすいかもしれない。他の市町では重層的支援体制整備事業をあまり詳しく書いていないが、逆にいうと長浜市は進んでいるということ。ご意見を踏まえ、ご検討を頂きたい。

(委員)

・計画を市民が見たときに、市民がその気になるようなものになってほしい。うまく表現できないが、私たちが皆で頑張らないといけないと思う。その気にさせるものにしてほしい。

・計画は困り事があってからみるものではなく、行くべき方向を示す計画であるので、地域が頑張っっていきましょう、というのが強制ではない中であると良い。

(委員)

・4本の柱で目指す地域福祉について、もともと3本だったが共助から分裂して互助が増えた。自分の場所で自分たちがどうしたら良いのか、自分がどこで頑張るのか、掘り下げられたら良いと思う。

(委員)

・多様性とは、分かりあえない・理解しあえないところはあるかもしれないが、それでも違いや理解をあきらめないというものに感じる。違う気持ちがあることを理解する、違いをあきらめないという考え。希薄の反対が多様性なのかと思う。あたたかいもの、もともと大事にしなければならない意味が多様性にはあると思う。

(委員)

・多様性をプラスの意味に捉えていくのは良い。福祉というと困っている人を取り残さない、支えるということに負担感をもつのではなく、多様性こそが強みとしてプラスの意味でとらえられたら良い。もっとみんなにがんばってもらい、やりがいをもって仲間をつくり、地域福祉に貢献するという。強み・興味などプラスの面があるとより入り込みやすい。好きなことでだれかの役にたちたい、そういうものが理念にも必要だと思う。

(座長)

・理念の注釈部分の説明がより丁寧であればよい。誤解が生まれる表現は消す。地域はそもそも多様であり、それを意識して地域づくりを進めないといけない。いろんな視点は強みになる。「多様性を尊重しなければならない」ではなく、「多様性こそ力」と捉えられるようにする文言を検討してほしい。

(事務局)

- ・第2期計画の進捗状況報告。
- ・今後のスケジュール報告。

以上